



6月28日（水）授業研究・研究協議会

1. はじめに

広島県神石高原町立三和小学校指導教諭の松葉伸江先生を講師としてお迎えし、今年度初めての海田版「学びの変革」推進事業（海田中校区）授業研究会を行いました。

平成30年度からの「課題発見・解決学習」の全県展開及び学習指導要領の改訂に伴い、特別の教科「道徳」の先行実施（小学校）に合わせて、海田中学校区の小・中学校や海田町内の学校が今後どのように取組を推進していけばよいのかをご示唆いただきました。各学校で、今年度のカリキュラムの計画的な実施や日々の授業改善に向けて、教職員の皆さんで共通認識しながら取組を進めていきましょう。

2. 研究授業

(1) 特別の教科「道徳」

主題名「人のために」 C- (13) 勤労・公共の精神
資料名「ことぶき園に行ったよ」

(2) 授業者

第3学年1組 担任 中坪 清美 教諭

(3) 授業について

【ねらい】

自分の住む町に誇りを持ち、人のために働くことのよさを感じ取って、自分にできることを進んでやっという態度を養う。

【育成したい資質・能力】

- ① 地域に生きる自分について関心を持ち、地域のよさを感じ取り、みんなのために働くことの意義について進んで考え、地域に積極的に関わろうとしたり、自分から進んでみんなのために働こうとしたりする。(主体性)
- ② 地域に生きる自分について、道徳教材や友達の意見に触れながら考えたり、地域の様々な立場の方との触れ合いから考えを深めたりしようとしている。(思考力)
- ③ 自分の生活を振り返り、自分のよさや課題を見つめ、自分の成長に気付いている。(自己理解)

【本時の目標】

自分にできることをすることが相手を喜ばせることにつながることや、仕事は辛く苦しいだけのものではないということに気付き、進んで人のために働こうとする心情を育てる。



【考え、議論する道徳の時間を充実させるために】

事前に学級活動「係活動を見直そう」という活動を行い、自分の仕事を行えているかとその理由について振り返らせたアンケート結果を提示することで、仕事ができている現状や仕事を他律的に考えている現状に気付かせ、その結果から本時の課題の必然性が生まれていました。資料の主人公だけでなく老人ホームのおじいさんやおばあさん等いろいろな立場での発問を行うことにより、損得だけではなく人が喜んでくれることの嬉しさや人の役に立つことの喜びに気付かせることができていました。また、車椅子体験などの福祉体験が事前に設定され、総合的な学習の時間との関連が図られたプログラムであったと思います。

3. 研究協議会

- 協議の柱：① 総合的な学習の時間と道徳科の関連を図った道徳プログラムの工夫
② 考え、議論する道徳科の充実の工夫

(1) グループ協議会

上記の協議の柱をもとに、グループ協議で出された課題をいくつか紹介します。

- ・ありがとうカードを早い段階で渡して、読んで感じたことを発表するなど、自分の生活を振り返る時間を十分確保する必要があった。また、導入の感想を2～3人にすると、時間配分が上手くいったのではないかと。
- ・テーマに沿って子ども達が議論すべきであるが、発表する児童が固定化していたので、意図的指名をするなどして、クラス全体が議論できるとよい。



(2) 指導講話

○ 特別の教科道徳について

答えが1つではない道徳的な課題を一人一人の子どもが自分自身の問題と捉え、向き合うことで、「考え、議論する」道徳へと転換する→主体的・対話的で深い学び

○ 評価について

「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」を、児童の発言や感想文、振り返りの記述等から見取る。児童側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となる。

○ 道徳科の授業づくり

「読み物教材の登場人物への関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」を組み合わせるなどして、多様な指導方法を工夫する。

4. 最後に

「広島版『学びの変革』アクション・プラン」にある学んだ知識を活用し、協働して新たな価値を生み出すことのできる力を身に付ける「主体的な学び」と「考え、議論する」道徳とは、軌を一にするものです。よりよく生きていくための資質・能力を培うために、道徳科の授業改善に取り組んでいきましょう。